



藤田医科大学 医学部
内分泌・代謝・糖尿病内科学
梶村 益久



藤田医科大学
FUJITA HEALTH UNIVERSITY

自己免疫性視床下部下垂体炎の診断マーカーの同定

【概要】

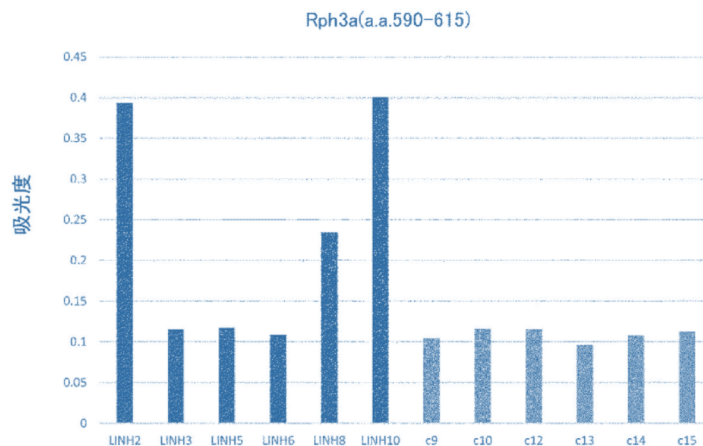
病因が明らかでない下垂体機能障害の一つに**自己免疫性視床下部下垂体炎**があり、その代表的疾患が**リンパ球性下垂体炎**である。リンパ球性下垂体炎は、腫瘍性病変に伴う頭痛、視覚障害を生じ、従来の特発性下垂体機能低下症、特発性中枢性尿崩症の主な原因と考えられる。発症機序として自己免疫の異常が考えられているが、分子学的機序はほとんどわかっていない。

リンパ球性下垂体炎の分類の一つであるリンパ球性漏斗下垂体後葉炎の臨床での大きな問題は、**診断が困難**という点である。**確定診断には、脳下垂体生検が必要**であり、治療に際し未解決の大きな問題点がある。

【提供するシリーズ】

研究者らは、リンパ球性漏斗下垂体後葉炎の**非侵襲的診断マーカー抗ラブフィリン3A抗体を発明**した。また、**世界初の下垂体後葉炎動物モデル作製に成功し、ラブフィリン3Aは病因自己抗原**であることを示した。

現在、ラブフィリン3Aのエピトープをターゲットとした、より**特異度が高く、測定が簡易であるELISA法の開発**を行っている。



ラブフィリン3aの部分ペプチド (a.a.590-615) を固相化したプレートを用いたELISAの結果。C9～C15は健常者血清。

【関連文献・知財等】

- リンパ球性漏斗下垂体後葉炎の診断マーカーとして抗ラブフィリン3A抗体を発明（日本、米国、英国、ドイツ、フランスで特許登録済）
- 抗ラブフィリン3A抗体が特異的に認識するエピトープを同定（国内特許登録済）